

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月13日

【四半期会計期間】 第24期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 株式会社N e x T o n e

【英訳名】 NexTone Inc .

【代表者の役職氏名】 代表取締役C E O 阿 南 雅 浩

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区広尾一丁目1番39号 恵比寿プライムスクエアタワー20F

【電話番号】 03-5766-8086

【事務連絡者氏名】 取締役 渡 邊 史 弘

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区広尾一丁目1番39号 恵比寿プライムスクエアタワー20F

【電話番号】 03-5766-8086

【事務連絡者氏名】 取締役 渡 邊 史 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第23期 第2四半期 連結累計期間	第24期 第2四半期 連結累計期間	第23期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高	(千円)	4,143,998	4,437,016	8,814,676
経常利益	(千円)	325,239	440,863	841,465
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	220,457	299,721	631,269
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	220,457	299,721	631,269
純資産額	(千円)	3,162,144	5,093,933	3,574,395
総資産額	(千円)	7,079,169	12,795,505	7,821,376
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	22.78	30.84	65.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	22.38	30.43	64.05
自己資本比率	(%)	44.7	30.4	45.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	596,068	715,592	1,160,025
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	146,459	1,360,165	323,783
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	10,997	2,767	12,437
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	5,653,149	8,119,748	6,041,222

回次		第23期 第2四半期 連結会計期間	第24期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	15.96	15.77

- (注) 1.当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2.2023年9月29日に株式会社レコチョコの株式を取得し同社及びその子会社である株式会社エッグスを連結子会社化しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は、以下のとおりです。

2023年9月29日に株式会社レコチョコの株式を取得したことに伴い、当第2四半期連結会計期間より同社及びその子会社である株式会社エッグスを連結の範囲に含めております。

この結果、2023年9月30日現在では、当社グループは、当社及び連結子会社4社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」からの重要な変更があった事項は以下のとおりであります。

以下の見出しに付された項目番号は、前事業年度の有価証券報告書における「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 事業等のリスク」の項目番号に対応したものです。有価証券報告書からの追加及び変更点に関しては下線を付しております。また、当該事項の変更のない部分については、一部省略をしております。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

1. 事業内容に係るリスク

(追加)

(4) 音楽配信市場に関するリスクについて

当社グループが事業を展開するデジタル音楽配信市場は、通信会社の方針やサービスへの依存度が高く、技術革新や配信プラットフォームによる消費行動の変化、国内外有力企業によるストリーミング市場の競争激化等、様々な要因により市場規模が想定通り推移しない可能性があります。それら外部環境の変化による悪影響を受けた場合、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(追加)

(5) 投資に関するリスクについて

当社グループは今後も成長を続けるために、新規事業への挑戦や、人材の採用、システム投資、M&A等の戦略的な投資が重要であると認識しております。

出資や買収等の投資においては、対象となる企業の財務や税務、法務等の契約関係及び事業の状況等について事前に社内外の専門家と精査し、価値評価に関しては第三者評価機関の見解等も踏まえ、可能な限りリスクの低減に努めてまいります。しかしながら、投資後に、事業環境に急激な変化が生じた場合やその他予期し得ない理由により当初の計画通りに事業が進展しない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 事業体制に関わるリスク

(変更)

(6) 減損に関するリスクについて

当社グループは著作権等管理事業において、効率的かつ精度の高い徴収・分配業務を実現するために、システムへの投資を継続的に行っております。また、のれんに関しては、イーライセンスとJRCが合併・事業統合し当社が発足した際及び株式会社レコチョクの株式を取得し連結子会社とした際に計上しております。

これらのソフトウェア及びのれんは、無形固定資産に計上しておりますが、これらの資産が生み出す将来キャッシュ・フローの状況等によっては、減損損失の認識の必要性が生じる可能性があり、その場合には当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

(経営成績の概況)

当社グループが事業を展開する音楽関連市場は、一般社団法人日本レコード協会の調べによりますと、音楽ソフト（音楽ビデオ含む）の生産金額は前年同期比110%（2023年1月～9月）と、CD/映像ソフトのリリースは好調に推移しており、有料音楽配信売上金額は前年同期比113%（2023年1月～6月）と、その内訳をみるとダウンロードは縮小傾向にあるもののサブスクリプション型や広告収入型の音楽配信サービス等のストリーミング配信市場が引き続き拡大しております。このような情勢において、当社グループは、「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる。」という経営理念の下、次代を奏でる著作権エージェントとして、新しいテクノロジーを適切に導入しながら、公平・公正かつ透明性の高い著作権使用料の徴収・分配、著作物利用に対する迅速かつ柔軟な対応などに取り組んでまいりました。また、当社グループはこれまで企業価値向上のため事業基盤となる管理楽曲や取扱原盤を着実に積み上げ、DX推進による業務効率化、ソリューション型営業による取引拡大、楽曲・コンテンツの更なる利用促進、権利者へのマーケティングデータの提供等により上場以来増収増益を継続してまいりました。

それに加えて、既存事業のこれまでの成長スピードの更なる加速と、長期的な成長基盤拡充のため、2023年9月28日公表の「株式会社レコチョクとの戦略的な資本業務提携及び連結子会社化に関するお知らせ」のとおり、株式会社レコチョクとの資本業務提携を実施し、両社グループのシナジー発揮による既存事業の成長だけでなく将来的な新規事業の創出を目指しております。

当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、主力の「著作権等管理事業（著作権管理業務及びデジタルコンテンツディストリビューション業務）」が順調な新譜リリース、配信市場の伸長、管理楽曲と取扱原盤の増加、営業活動の強化等を背景に堅調に進展し、「キャストینگ事業」も前期までの新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、売上高は増収となりました。利益面でも、増収に伴う増益の他、前年同期に発生した役員退職慰労金制度廃止に伴う一時的な人件費増加要因がなくなったこともあり大幅増益となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間においては、株式会社レコチョク及びその子会社である株式会社エッグスの業績は含まれておらず両社の貸借対照表のみの連結となります。

以上の結果、売上高は4,437,016千円（前年同期比107.1%）、営業利益は439,254千円（前年同期比136.1%）、経常利益は440,863千円（前年同期比135.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は299,721千円（前年同期比136.0%）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

著作権等管理事業

著作権管理業務においては音楽著作物の利用時期と当社著作権管理業務の売上計上時期にはおおよそ1～2四半期のタイムラグが生じるため、当第2四半期連結累計期間の音楽著作権使用料の対象となる利用時期は主に2022年10月～2023年6月となります。

当該期間における著作権管理業務及びデジタルコンテンツディストリビューション（DD）業務は、CD/映像ソフトのリリース、配信市場の伸長、管理楽曲と取扱原盤の増加が堅調に推移し、Afterコロナにおける余暇時間の使い方の変化や配信市場規模拡大に伴う市場成長率の変化の傾向がみられる中、更なる営業活動の強化による新規取引先開拓や楽曲特定精度の向上による徴収額増加等に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は4,141,861千円（前年同期比104.2%）と増収となりましたが、人件費等の販売費及び一般管理費が増加し、セグメント利益は710,753千円（前年同期比98.5%）となりました。

キャストینگ事業

Afterコロナにおいてリアルイベントが活性化し、人気ミュージカルや舞台のライブビューイング、映像作品の先行上映会、家庭向け動画配信コーディネート、自主興行フェスの開催等様々なサービスの開発提供に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は252,466千円（前年同期比191.8%）と大幅増収となりましたが、当第1四半期連結会計期間に発生した過去のイベントの費用確定に伴う売上原価の追加計上等によりセグメント損失は5,008千円（前年同期は1,562千円の利益）となりました。

（財政状態の概況）

当第2四半期連結会計期間末より株式会社レコチョクを企業結合した影響が含まれております。

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べて4,974,128千円増加し、12,795,505千円となりました。これは主に、株式会社レコチョクを新規連結したことに伴う資産の増加5,659,941千円によるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて3,454,590千円増加し、7,701,571千円となりました。これは主に、株式会社レコチョクを新規連結したことに伴う負債の増加3,167,473千円によるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて1,519,537千円増加し、5,093,933千円となりました。これは主に、株式会社レコチョクを新規連結したことに伴う非支配株主持分の増加1,204,692千円のほか、利益剰余金の増加299,721千円によるものであります。

利益剰余金の増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益の増加によるものであります。

（2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して2,466,599千円増加し、8,119,748千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とその原因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、715,592千円（前年同四半期は596,068千円）となりました。これは主に、法人税等の支払額が181,497千円あったものの、著作権等管理事業の業績が好調に推移したことで資金が積み上がったことによるものであります。その主な内容は、著作権管理業務において権利者への分配が増加したことに伴う未払金の増加額355,288千円に加え、著作権等管理事業で使用しているソフトウェア等の減価償却費79,619千円及び税金等調整前四半期純利益440,863千円が計上されたことにより資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,360,165千円(前年同四半期は146,459千円)となりました。これは主に、株式会社レコチョコを新規連結したことに伴う同社の現預金の取り込みによる増加1,497,023千円及び著作権等管理事業において使用しているシステムの継続的な改修及び新機能追加等に伴う無形固定資産の取得による支出136,688千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,767千円(前年同四半期は10,997千円)となりました。これは主に、ストックオプションの権利行使に伴う新株発行による収入2,880千円によるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、2023年9月28日開催の取締役会において、株式会社レコチョコの株式を取得して子会社化することを決議し、9月28日付で株式譲渡契約を締結いたしました。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」をご参照ください。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,818,400	9,826,800	東京証券取引所 グロース市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株であります。
計	9,818,400	9,826,800	-	-

(注) 提出日現在発行数には、2023年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日(注)	4,800	9,818,400	720	1,200,222	720	736,761

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アミューズ	山梨県南都留郡富士河口湖町西湖997	720,000	7.40
株式会社フェイス	京都府京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1 井門明治安田生命ビル	720,000	7.40
住友生命保険相互会社	東京都中央区八重洲2丁目2-1	432,700	4.45
株式会社JRCホールディングス	東京都渋谷区恵比寿南2丁目8-12	418,300	4.30
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	東京都千代田区六番町4-5	396,000	4.07
エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社	東京都港区三田1丁目4-1	371,200	3.82
株式会社創通	東京都中央区銀座5丁目9-5	354,000	3.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	300,800	3.09
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ	東京都港区赤坂5丁目3-1	300,000	3.08
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	269,700	2.77
計		4,282,700	44.03

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式 92,610株があります。
2. 2023年10月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、野村證券株式会社及びその共同保有者であるノムラ インターナショナル ピーエルシー (NOMURA INTERNATIONAL PLC)、ノムラ セキュリティーズ インターナショナル (NOMURA SECURITIES INTERNATIONAL, Inc.)、野村アセットマネジメント株式会社が2023年10月13日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2023年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、その大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番1号	105,604	1.08
ノムラ インターナショナル ピーエルシー (NOMURA INTERNATIONAL PLC)	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	9,887	0.10
ノムラ セキュリティーズ インターナショナル (NOMURA SECURITIES INTERNATIONAL, Inc.)	Worldwide Plaza 309 West 49th Street New York, New York 10019-7316	0	0.00
野村アセットマネジメント株式会社	東京都江東区豊洲二丁目2番1号	379,000	3.86
計		494,491	5.04

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 92,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,714,400	97,144	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 11,400	-	-
発行済株式総数	9,818,400	-	-
総株主の議決権	-	97,144	-

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社N e x T o n e	東京都渋谷区広尾一丁目1 番39号 恵比寿プライムス クエアタワー20F	92,600	-	92,600	0.94
計	-	92,600	-	92,600	0.94

(注) 1. 当社は、単元未満自己株式10株を保有しております。

2. 2023年7月21日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬の割当として、2023年8月8日に自己株式3,968株の処分を実施いたしました。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,041,222	8,119,748
受取手形及び売掛金	282,177	1,600,784
仕掛品	796	5,282
貯蔵品	-	2,323
その他	383,368	423,893
貸倒引当金	-	3,712
流動資産合計	6,707,564	10,148,319
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	794	16,920
工具、器具及び備品(純額)	11,560	31,679
有形固定資産合計	12,355	48,600
無形固定資産		
のれん	45,653	299,822
ソフトウェア	727,482	1,501,079
その他	7,995	133,481
無形固定資産合計	781,131	1,934,382
投資その他の資産		
繰延税金資産	185,559	189,941
その他	134,766	474,261
投資その他の資産合計	320,326	664,202
固定資産合計	1,113,812	2,647,185
資産合計	7,821,376	12,795,505

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	872,542	2,959,581
未払金	2,647,371	3,426,060
未払法人税等	191,374	170,313
賞与引当金	85,000	199,779
役員賞与引当金	32,492	17,784
その他	46,922	372,531
流動負債合計	3,875,704	7,146,049
固定負債		
長期未払金	259,756	314,073
退職給付に係る負債	111,520	119,887
その他	-	121,560
固定負債合計	371,276	555,521
負債合計	4,246,981	7,701,571
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,198,782	1,200,222
資本剰余金	738,148	743,246
利益剰余金	1,849,057	2,148,778
自己株式	211,591	203,005
株主資本合計	3,574,395	3,889,240
非支配株主持分	-	1,204,692
純資産合計	3,574,395	5,093,933
負債純資産合計	7,821,376	12,795,505

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,143,998	4,437,016
売上原価	2,994,307	3,210,357
売上総利益	1,149,691	1,226,658
販売費及び一般管理費	826,915	787,404
営業利益	322,775	439,254
営業外収益		
受取利息	27	32
受取配当金	339	762
為替差益	1,328	784
還付加算金	768	7
その他	0	21
営業外収益合計	2,463	1,609
営業外費用		
固定資産除却損	0	-
営業外費用合計	0	-
経常利益	325,239	440,863
税金等調整前四半期純利益	325,239	440,863
法人税等	104,781	141,142
四半期純利益	220,457	299,721
親会社株主に帰属する四半期純利益	220,457	299,721

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	220,457	299,721
四半期包括利益 (内訳)	220,457	299,721
親会社株主に係る四半期包括利益	220,457	299,721

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	325,239	440,863
減価償却費	64,654	79,619
のれん償却額	8,056	8,056
受取利息及び受取配当金	366	795
固定資産除却損	0	-
売上債権の増減額（は増加）	75,667	146,005
仕入債務の増減額（は減少）	109,603	14,320
賞与引当金の増減額（は減少）	27,322	29,986
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	94,659	-
役員賞与引当金の増減額（は減少）	9,417	14,708
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	7,620	8,367
前渡金の増減額（は増加）	24	31
未払金の増減額（は減少）	173,692	355,288
長期未払金の増減額（は減少）	-	1,848
その他	61,198	183,173
小計	731,975	896,377
利息及び配当金の受取額	360	711
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	136,267	181,497
営業活動によるキャッシュ・フロー	596,068	715,592
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	600	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	1,497,023
無形固定資産の取得による支出	145,859	136,688
敷金及び保証金の差入による支出	-	240
敷金及び保証金の回収による収入	-	70
投資活動によるキャッシュ・フロー	146,459	1,360,165
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	11,340	2,880
自己株式の取得による支出	342	112
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,997	2,767
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	460,606	2,078,526
現金及び現金同等物の期首残高	5,192,542	6,041,222
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,653,149	8,119,748

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
当第2四半期連結会計期間において、株式会社レコチョコクの株式を取得したことにより、株式会社レコチョコク及びその子会社である株式会社エッグスを連結の範囲に含めております。	
なお、当該連結の範囲の変更は、当四半期連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えない見込みであります。当該影響の概要は、連結貸借対照表の総資産の増加、連結損益計算書の売上高等の増加であります。	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
給料及び手当	194,841千円	207,226千円
賞与引当金繰入額	51,095 "	45,157 "
役員賞与引当金繰入額	14,710 "	16,855 "
退職給付費用	6,219 "	7,839 "
役員退職慰労引当金繰入額	95,359 "	- "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	5,653,149千円	8,119,748千円
現金及び現金同等物	5,653,149千円	8,119,748千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2022年7月21日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として2022年8月8日を期日とする自己株式の処分(3,594株)を行い、資本剰余金が2,826千円増加し、自己株式が7,879千円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間において新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ5,670千円増加し、単元未満株式の買取りにより自己株式が342千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,198,062千円、資本剰余金が737,428千円、自己株式が211,591千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	著作権等 管理事業	キャストイング 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,974,873	131,622	4,106,495	37,503	4,143,998	-	4,143,998
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	173,162	173,162	173,162	-
計	3,974,873	131,622	4,106,495	210,665	4,317,160	173,162	4,143,998
セグメント利益	721,335	1,562	722,898	27,337	750,236	427,460	322,775

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発・保守運用事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 427,460千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 416,002千円及びセグメント間取引消去 11,457千円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	著作権等 管理事業	キャストイング 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,141,861	252,466	4,394,328	42,688	4,437,016	-	4,437,016
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	206,152	206,152	206,152	-
計	4,141,861	252,466	4,394,328	248,840	4,643,168	206,152	4,437,016
セグメント利益又は損失 ()	710,753	5,008	705,744	41,070	746,814	307,560	439,254

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発・保守運用事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 307,560千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 293,251千円及びセグメント間取引消去 14,309千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客からの契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計
	著作権等 管理事業	キャストイング 事業	計		
日本	1,609,647	131,622	1,741,269	37,503	1,778,773
米国	2,049,554	-	2,049,554	-	2,049,554
その他	315,671	-	315,671	-	315,671
顧客との契約から生じる収益	3,974,873	131,622	4,106,495	37,503	4,143,998
外部顧客への売上高(注)2	3,974,873	131,622	4,106,495	37,503	4,143,998

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発・保守運用事業を含んでおります。

2. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計
	著作権等 管理事業	キャストイング 事業	計		
日本	1,656,755	252,466	1,909,222	42,688	1,951,910
米国	2,123,472	-	2,123,472	-	2,123,472
その他	361,633	-	361,633	-	361,633
顧客との契約から生じる収益	4,141,861	252,466	4,394,328	42,688	4,437,016
外部顧客への売上高(注)2	4,141,861	252,466	4,394,328	42,688	4,437,016

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発・保守運用事業を含んでおります。

2. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社レコチョク

事業の内容 音楽配信サービスの企画・運営、コンテンツ・サービスの企画・運営 他

企業結合を行った主な理由

当社グループは「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる。」ことを経営理念に掲げ、「次代を奏でる著作権エージェント」として著作権管理業務の他、デジタルコンテンツディストリビューション業務やキャスティング事業といった利用促進事業を通じ音楽コンテンツの経済価値最大化を図り、豊かな社会の実現、音楽文化・音楽産業の発展に貢献することを目標としております。

株式会社レコチョクは「音楽市場の最大活性化」をミッションに掲げ、「音楽業界のIT部門」を目指し、個人・法人向けの音楽配信事業をはじめ、権利者へのビジネス支援を目的としたソリューション事業の他、web3などブロックチェーン技術を活用したサービスの企画・開発、さらに子会社の株式会社エッグスではインディーズアーティストの活動支援を展開しております。

経営理念やミッションをはじめ音楽業界における役割や事業運営方針等の親和性が高い両社が資本業務提携を行うことで、両社の事業の相乗効果によるシナジーを引き出し、新たな事業創出や加速度的な企業成長も期待できることから、両社、ひいては音楽市場の発展に資すると判断し、本決定にいたしました。

企業結合日

2023年9月28日

企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

結合後企業の名称

変更ありません。

取得した議決権比率

51.7%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第2四半期連結累計期間においては貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,550,000千円
取得原価		1,550,000千円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 1,600千円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

262,225千円

なお、のれんは、当第2四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

償却の方法及び償却期間

将来の超過収益力の発現する期間において均等償却を行う予定です。なお、償却期間については算定中です。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	22円78銭	30円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	220,457	299,721
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	220,457	299,721
普通株式の期中平均株式数(株)	9,676,375	9,717,723
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	22円38銭	30円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	175,664	132,232
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月13日

株式会社NextOne
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 後 藤 英 俊

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 原 康 二

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社NextOneの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社NextOne及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。